

平成30年度「全国学力・学習状況調査」 狛江市の結果

「全国学力・学習状況調査」が平成30年4月17日(火)に実施され、その結果が文部科学省から各小・中学校へ送付されるとともに、教育委員会へも報告されました。

「全国学力・学習状況調査」は平成19～21年度の3年間悉皆で調査されましたが、平成22年度から抽出調査に切り替えられました。(平成23年度は東日本大震災の影響で中止)しかし、抽出調査に変更されたことにより、「各都道府県の状況についてはおおむね把握できるが、詳細な状況把握及び分析等には生かしくなくなっている」という課題から、平成25年度から悉皆調査として実施されています。

平成30年度は、国語(A・B)、算数・数学(A・B)、理科が悉皆で実施されました。

市内の小・中学校の結果の分析についてまとめましたので、御報告いたします。

調査の概要

【調査実施日】
平成30年4月17日(火)

- 【調査の目的】
- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
 - 取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する
 - 学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる

【調査対象】
小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童・生徒

【調査内容】
①教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none"> 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 実生活において不可欠であり、常に活用できるようにしていることが望ましい知識・技能など 	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力など

※ 理科については、同一調査内に「主として『知識』に関する問題」、「主として『活用』に関する問題」がある。

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
<p>学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語の勉強は好きですか、授業の内容はどの程度分かりますか、一日にテレビを見る時間、読書時間、勉強時間の状況 など</p>	<p>指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上や学習の定着に向けた取組、習熟度別少人数指導、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況 など</p>

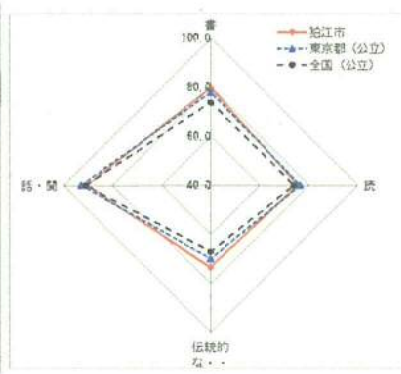
小学校

◇結果が良かったこと
◆今後、改善が期待されること

国語A 主として知識	平均正答率(%)				
	狛江市	東京都(公立)	全国(公立)	差比	全国比
全体	76	74	70.7	2.0	5.3
話すこと・聞くこと	90.3	92.6	90.8	-2.3	-0.5
書くこと	79.6	77.9	73.8	1.7	5.8
読むこと	75.4	76.5	74.0	-1.1	1.4
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.5	69.9	67.0	3.6	6.5

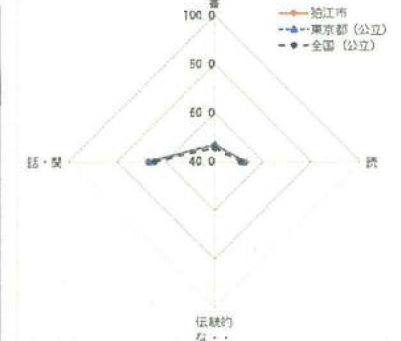
◇「書くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、国・東京都の平均正答率を上回りました。特に「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、全ての問題で東京都の平均正答率を2～9%程度上回りました。
◆「話すこと・聞くこと」、「読むこと」では、東京都の平均正答率を下回りました。

※差を明らかにするため、小学校のグラフの最小値は一律に「40」に設定



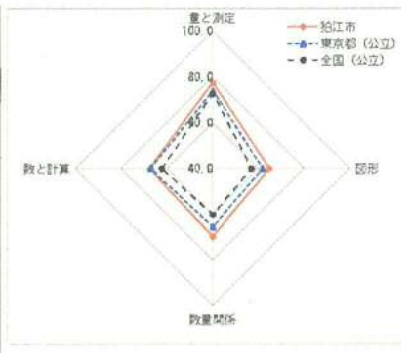
国語B 主として活用	平均正答率(%)				
	狛江市	東京都(公立)	全国(公立)	差比	全国比
全体	57	57	54.7	0.0	2.3
話すこと・聞くこと	67.4	66.8	64.6	0.6	2.8
書くこと	46.8	47.1	45.6	-0.3	1.2
読むこと	52.9	52.1	50.8	0.8	2.1
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	設問なし				

◇「話すこと・聞くこと」、「読むこと」では、国・東京都の平均正答率を上回りました。
◆「書くこと」では、「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く」問題は、平均正答率が16.1%(東京都は14.4%)となりました。



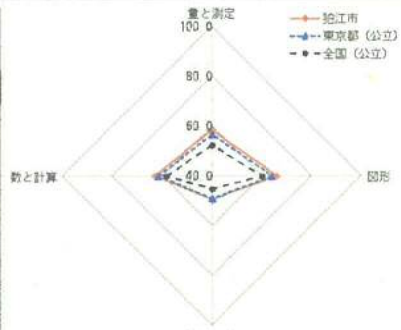
算数A 主として知識	平均正答率(%)				
	狛江市	東京都(公立)	全国(公立)	差比	全国比
全体	70	67	63.5	3.0	6.5
数と計算	67.5	67.2	62.3	0.3	5.2
量と測定	77.5	74.0	72.7	3.5	4.8
図形	64.7	61.7	56.9	3.0	7.8
数量関係	69.7	65.3	60.1	4.4	9.6

◇全項目において、国・東京都の平均正答率を上回りました。特に「量と測定」、「図形」、「数量関係」においては全ての問題で国・東京都の平均正答率を上回りました。
◆「数と計算」では、「数と計算」では、国・東京都の平均正答率を上回ったものの、「1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表す」問題では、との平均を5%下回りました。



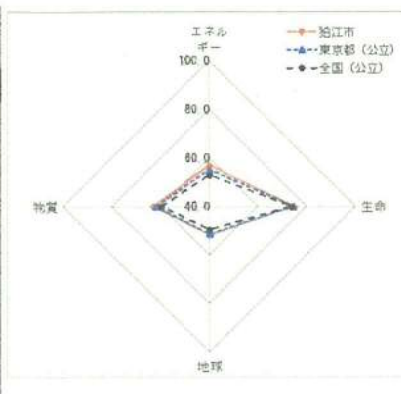
算数B 主として活用	平均正答率(%)				
	狛江市	東京都(公立)	全国(公立)	差比	全国比
全体	57	55	51.5	2.0	5.5
数と計算	63.0	61.6	58.4	1.4	4.6
量と測定	58.3	56.7	52.4	1.6	5.9
図形	66.0	64.1	59.9	1.9	6.1
数量関係	49.6	49.0	45.1	0.6	4.5

◇算数A同様、全項目において、国・東京都の平均正答率を上回りました。
◆「数量関係」の「メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述する」問題では、平均正答率が24.3%(東京都は20.7%)となりました。



理科	平均正答率(%)				
	狛江市	東京都(公立)	全国(公立)	差比	全国比
全体	63	62	60.3	1.0	2.7
A区分 物質	62.9	62.0	59.8	0.9	3.1
A区分 エネルギー	56.9	55.2	53.1	1.7	3.8
B区分 生命	74.6	74.3	73.6	0.3	1.0
B区分 地球	51.8	51.3	49.5	0.5	2.3

◇全項目において、国・東京都の平均正答率を上回りました。
◇「主として『活用』に関する問題」においては、東京都の平均正答率とは同程度でしたが、国を上回りました。
◆B区分の「地球」で「一度に流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、選んだわけを書く」問題では、平均正答率が20.8%(東京都は22.0%)となりました。



中学校

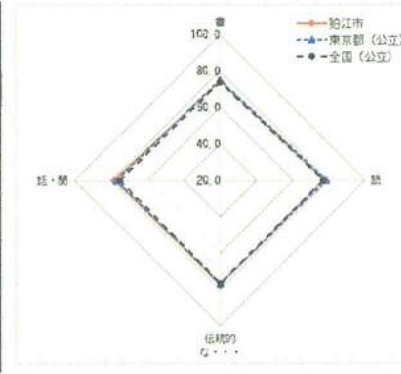
平成30年10月9日
庁議資料

◇結果が良かったこと
◆今後、改善が期待されること

国語A 主として知識	平均正答率(%)				
	狛江市	東京都(公立)	全国(公立)	差比	全国比
全体	77	77	76.1	0.0	0.9
話すこと・聞くこと	78.2	77.0	75.2	1.2	3.0
書くこと	74.3	75.3	73.9	-1.0	0.4
読むこと	77.0	78.4	76.7	-1.4	0.3
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.5	76.8	76.5	0.7	1.0

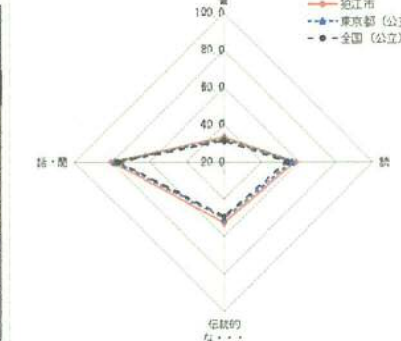
◇「話すこと・聞くこと」においては、国・東京都の平均正答率を上回りました。
◆「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、国及び東京都の平均正答率を上回ったものの、『心を打たれた。』を文末に用いた一文を、主語を明らかにし、『誰(何)の『どのようなこと』が分かるように書く』問題では、平均正答率が20.8%(東京都は23.7%)となりました。

※差を明らかにするため、中学校のグラフの最小値は一律に「20」に設定



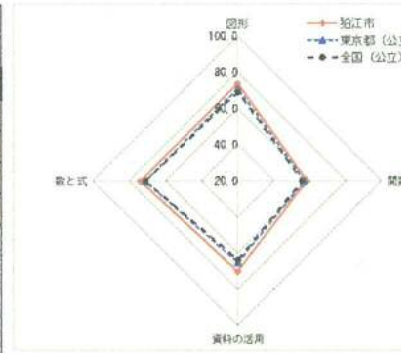
国語B 主として活用	平均正答率(%)				
	狛江市	東京都(公立)	全国(公立)	差比	全国比
全体	65	63	61.2	2.0	3.8
話すこと・聞くこと	80.2	78.0	76.6	2.2	3.6
書くこと	33.4	32.2	31.3	1.2	2.1
読むこと	58.0	56.1	53.5	1.9	4.5
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	52.6	50.3	49.2	2.3	3.4

◇全項目において、国・東京都の平均正答率を上回りました。
◆「書くこと」「読むこと」については、『天地無用』という言葉を使った意味で解釈してしまう人がいる理由を書く問題では、平均正答率が14.3%(東京都は14.2%)となりました。



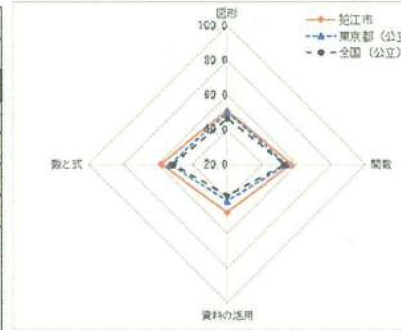
数学A 主として知識	平均正答率(%)				
	狛江市	東京都(公立)	全国(公立)	差比	全国比
全体	70	67	66.1	3.0	3.9
数と式	74.0	71.4	71.1	2.6	2.9
図形	73.7	71.1	69.1	2.6	4.6
関数	58.3	56.6	55.5	1.7	2.8
資料の活用	69.9	65.0	63.5	4.9	6.4

◇全項目において、国・東京都の平均正答率を上回りました。
◆「関数」の「A駅からの道のりが6kmの地点において、列車Aが通ってから列車Bが通るまでの時間をグラフから求める方法を説明する」問題では、平均正答率が16.6%(東京都は14.7%)となりました。



数学B 主として活用	平均正答率(%)				
	狛江市	東京都(公立)	全国(公立)	差比	全国比
全体	53	49	46.9	4.0	6.1
数と式	57.9	53.2	51.4	4.7	6.5
図形	50.9	50.2	46.7	0.7	4.2
関数	56.7	54.0	52.8	2.7	3.9
資料の活用	47.9	41.1	38.0	6.8	9.9

◇数学A同様、全項目において、国・東京都の平均正答率を上回りました。
◆「関数」の「A駅からの道のりが6kmの地点において、列車Aが通ってから列車Bが通るまでの時間をグラフから求める方法を説明する」問題では、平均正答率が16.6%(東京都は14.7%)となりました。



理科	平均正答率(%)				
	狛江市	東京都(公立)	全国(公立)	差比	全国比
全体	65	65	66.1	0.0	-1.1
第1分野 物理的領域	73.7	73.7	74.4	0.0	-0.7
第1分野 化学的領域	63.1	63.7	65.0	-0.6	-1.9
第2分野 生物的領域	69.5	71.0	72.5	-1.5	-3.0
第2分野 地学的領域	58.5	58.3	57.8	0.2	0.7

◇「主として『活用』に関する問題」においては、国・東京都の平均正答率を上回りました。
◆「主として『知識』に関する問題」においては、国・東京都の平均正答率を下回りました。
◆第2分野の「神経系の働きについての知識」に関する問題では、東京都の平均正答率が11.1%下回りました。

